様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：２５３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｈ０１２０９

研究課題名（和文）詩学的虚構論と複数世界論の交叉の系譜的研究

研究課題名（英文）Philosophy of fiction - Historical studies on the concept of world under the Baumgarten's scope

研究代表者
樋笠　勝士（Hikasa, Katsushi）

岡山県立大学・デザイン学部・特任教授

研究者番号：１０２０８７３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,100,000円

研究成果の概要（和文）：哲学には「複数世界論」がある．例えば「知性界」と「感性界」という二世界説や，世界創造論から導かれた「可能世界」論がある．他方で，詩や文芸においては，例えば「イリアスの世界」として理解される「作品世界」がある．これらは「虚構世界」として「現実世界」から区別される．哲学と文学は異なる立場に立ちつつも「世界」概念をもつ点で共通するが，両者が思想史的に交叉する歴史的地点がある，それは哲学的理論を根拠にしながら文学の「フィクション」論を構築した西洋近代のバウムガルテンである．本研究は，「複数世界論」と「詩学的虚構論」との交叉を主題とし，バウムガルテンと，その以前以後について系譜的に研究したものである．

研究成果の学術的意義や社会的意義
学術的社会的意義としては，バウムガルテン哲学美学については世界的に研究成果が少ない中，日本において初めてバウムガルテン哲学美学を中心にした本格的な系譜的研究が実現したと言える．哲学では古代哲学から主題とされてきた「フィクション」の存在論的問題に対して初めて概念史的解答を与えることになったと共に，美学でもバウムガルテンが唱えた感性学の目的とその本質的理解を導くことになった．そこから「フィクション」の存在性格は，哲学が理論的に構築する世界の存在性格と同様に，観念的構想と意味内容に応じて存立することが明確となり，世界や人間把握を共通目的とする哲学と文学の両輪形式が改めて把握しなおされることとなった．

研究成果の概要（英文）：We all find in the history of philosophy the theory of the worlds, for example, of two worlds (of mind and of senses). Also there is the theory of possible worlds derived from the theory of creation-of-this-world by God. On the other hand, in the fields of poetry & literature, we commonly apply the concept of world, which is understood as fictional world contrary to our real world, to each works, for example, the world of Homer's Illiad.
These concepts of world meet at the philosophy/Aesthetics of A.G.Baumgarten in 18th century. Under this viewpoint, our historical study, which has 3 stages i.e. before him, himself, and after him, aims at clarifying the thoughts of relation between theories of world and fictional world.

研究分野：哲学，美学芸術学，西洋古典学

キーワード：フィクション　複数世界　詩学　虚構　バウムガルテン　可能世界論　感性的美学　弁論術

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９,Ｆ－１９－１,Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究代表者である樋笠は美学と哲学を専門とし,研究テーマは主に時代的には西洋古典及び中世キリスト教思想を中心に研究してきたが,本研究の着想に至った経緯と背景は以下の通りである.

(1) 詩学と形而上学の関係の問題：往々にして詩学研究者は形而上学を敬遠し,形而上学研究者は詩学を軽視する.この研究姿勢は美学の学的発展に寄与しない.両者の連動的研究が必須であり「詩学的虚構論」と「複数世界論」はその課題に応えるテーマである.

(2) 現代の分析美学におけるフィクション論の問題：分析美学のフィクション研究も言語ではなく事柄の問題に触れざるえない状況がある.「虚構」と存在との指示連関,「虚構」と表象認識経験との連関,虚構と現実性との連関は,歴史上の存在論や認識論の問う事柄である.分析美学が「作品の世界」という完結した世界概念に触れないことにも同様の問題がある.フィクション論の理論的解明のためにも歴史的な視点が必要である.

(3) 「作品世界」の問題　：芸術家の作品創造の言説形式は,古典古代における神の世界創造に対して類比的に語られた所産である.このとき「世界」概念が成立する.芸術作品が「創造された世界」であることの意義をバウムガルテンは『詩に関する諸点についての哲学的省察』や『美学』で論じるが,このバウムガルテン美学がフィクション論のみならず美学における「芸術世界」の概念をめぐる議論に活かされねばならない.

以上の 3 点の問題意識は代表者にとって従前のものであるが,直近の契機としては第 67 回美学会シンポジウム(2016 年,同志社大学)にて司会を担当したことにある.そこではテロリズムと言ってよい現代芸術の活動を「芸術」として見るのか「現実」として見るのかの境界の問題が提出されており,まさに芸術虚構論が芸術であるか否かをも実現させる根本要因となっていたからである.従って,虚構とは芸術概念全体を論じる基本的主題であると言わねばならない.

以上の他,「詩学的虚構論」と「複数世界論」の接合に関する研究動向については,以下の背景があった. 1920 年代からバウムガルテン研究者の中でかかる二つの視点に関する指摘が始まり,70 年代には 両論の接合はバウムガルテンの功績として考えられるに至っている（ペツォルト,フランケ）.しかし日本では一部のバウムガルテン研究者に知られているだけで美学研究全体に資するところにまで至っていない. かかる接合も「交叉」としての歴史的文脈を提示してはじめて明確になるものと考えられる.また「詩学的虚構論」は,現代のフィクション論が主に分析哲学領域に限局されているのと同様に,古典虚構論の場合も古典哲学に限られた専門研究が多く,歴史的に架橋する視野をもつ総合的な研究はない.「複数世界論」も同様であり,ライプニッツの「可能世界論」の思想や, 宇宙論乃至天文学などの科学的分野に留まり,詩学的視点が希薄であった.このような背景から, 本研究では以下の三つの意義が期待されることになる.先ず, バウムガルテン美学における「詩学的虚構論」と 「複数世界論」の接合の実質を, 先行研究に比して一層文献実証的に内在的に明確にすることで,バウムガルテン美学を再評価し,バウムガルテン美学の歴史研究の最先端を切り開く成果をもたらす.次に, バウムガルテン美学が思想史の中で

結節点てになることを論証することによって，思想史乃至美学史の再構築が可能となる．そして古典と近代と現代的課題に通底する美学の基本的課題に応えることで哲学及び美学全体に学的に寄与する．

２．研究の目的

本研究は,「詩学的虚構論」と「複数世界論」の二視点によって歴史的に交叉する地点にバウムガルテン美学が成立したことを系譜的に明らかにする文献学的な基盤研究である.彼の美学を,『美学』のみならず,『詩に関する諸点についての哲学的省察』と『形而上学』にも基づくことで，バウムガルテン美学における古典的伝統の受容と変容,そこからロマン主義美学への展開を二視点において考察することで,「交叉」の内実と系譜的位置を明らかにし,彼の美学が古典古代美学と近代ロマン主義美学とを繋ぐ結節点にあることを明らかにする．

３．研究の方法

本研究が基礎とするのは,各自が上記のテーマに沿って,一次文献ならびに二次文献を収集し,原典主義の立場から精確な読解を行うことである.そこから得られた成果を,それぞれの年度に開催する「研究報告会」にて理解の深化を図る．研究体制は競争的な目的で４チームからなる体制をとり,チーム毎に研究をまとめる.年数回開く研究報告会にてチームの成果,及び個人研究の成果を報告する.研究報告会は必要に応じて関東圏での会合と関西圏での部会とを開き,代表とバウムガルテン研究の分担者は両方に出席し研究の全体を把握する.研究報告会の全体会議での結果をとりまとめて，これを報告書（論文集）の かたちで公表する．さらに,それぞれは各自の成果を国内外の学会で公表し,社会へ還元する．

４．研究成果

本科研費研究については，研究代表者や研究分担者，研究協力者の個々の研究成果があるが，それ以外に，直接的な研究成果も既に現している．それは本研究テーマ「詩学的虚構論と複数世界論の交叉の系譜的研究」に沿って作成された研究論文集『フィクションの哲学ー詩学的虚構論と複数世界論のキアスム』（月曜社，2022年3月発行）である．人文研究では，科研費研究テーマについて統一テーマに沿った綜合的な研究成果を出版することは，昨今の厳しい出版事情の中，困難なものがあるが，本研究については，研究分担者，研究協力者の力強い協力に加えて岡山県立大学の積極的な研究支援の下で，出版することが可能となった．全16編の研究論文を含むその研究成果は以下の通り，史的構成をとっている．

（1）編者前書き
本研究のテーマについての綜合的説明に相当する導入論.
樋笠勝士（研究代表者）：「フィクション」と「世界」

（2）「詩学的虚構論の系譜」
この章はバウムガルテン以前，それも古典期に当たる「フィクション論」である．ホメロスから始まる西洋文学への理解については，弁論術的な説得の技法の影響下にある「状況設定」，また形而上学の「世界論」構築における，存在論的性格をそなえた「観念的構想」，そして理性が

観念的に構想する「理虚的存在」をめぐる存在論的議論，といった構成で，フィクションの古典的議論が辿られる．さらにフィクションの性質に関して常に問題にされる「迫真性」について，アリストテレス『詩学』の歴史研究も加えている．

①堀尾耕一（研究協力者）「古代弁論術の伝統とフィクションの起源」
②樋笠勝士（研究代表者）「古代哲学における『観念的構想』の存在論的位置
　　ー　ストア派とプロティノスにおいて」
③山内志朗（研究協力者）「＜理虚的存在＞ens rationisは虚構か？
　　ー　中世から近世にかけての＜理虚的存在＞」
④津上英輔（研究分担者）「アリストテレース『詩学』における上演効果の論点
　　ー　メーイの解釈を補助線とする素描」

（3）「複数世界論の系譜」

バウムガルテン以前の「複数世界論」の思想系譜を辿る研究である．これは，哲学史ではライプニッツの「可能世界論」が重要であるが，ルネサンス哲学にも同様の思想が見いだされる．他方で，古来の科学思想に顕著な宇宙論に見られる複数世界論にも注目する必要がある．この点で，ここでは「世界」概念についての思想史的な研究方法が中心となる．

⑤長尾伸一（研究協力者）「複数世界と虚構空間
　　ー　可能世界，不可能世界，実世界の交錯」
⑥桑原俊介（研究分担者）「＜創造されなかった世界＞の論理
　　ー　ライプニッツの可能世界論の前史として」
⑦岡本源太（研究分担者）「ジョルダーノ・ブルーノにおける無限宇宙と複数世界
　　ー　神学的可能世界論の解体」

（4）「詩学的虚構論と複数世界論の交叉」

（2）と（3）はバウムガルテン以前であった．ここではバウムガルテンとその時代を扱う．それは，古代からの文学上の問題的主題「詩学的虚構論」と，哲学上の問題的主題「複数世界論」とが交叉する場である．バウムガルテンにおいて初めて「フィクション」が存在論，認識論，宇宙論，その他神学的考察の主要対象となったのである．この考察が『詩に関する諸点についての哲学的省察』や『形而上学』，後の『美学』の著作に結実することとなる．

⑧津田栞里（研究協力者）「バウムガルテンにおける認識能力論の再検討
　　ー　認識と自由の問題に関する一考察」
⑨井奥陽子（研究分担者）「神と詩人の世界創造
　　ー　J.P.ウーツの教訓詩『弁神論』における神学的可能世界論
　　と天文学的複数世界論の交錯」
⑩樋笠勝士（研究代表者）「バウムガルテンの『詩の哲学』」

（5）「詩学的虚構論と複数世界論の交叉の行方」

ここからバウムガルテン以後を扱う．近代哲学は，バウムガルテンが考察したフィクションの存在論的・認識論的課題に対してどのように応えたのか，詩学的虚構論と複数世界論との関係に

ついて，どのように対応したのか，これらを，バウムガルテンから形而上学を学んだカント以後という史的展開において見て行く．

⑪小田部胤久（研究分担者）「美的仮象論の成立過程　ー　カントからシラーへ」
⑫大橋容一郎（研究分担者）「複数世界の論理的構成
ー　エミル・ラスクのカテゴリー論とカントの超越的論理」
⑬高橋陽一郎（研究分担者）「詩におけるイデアの直観とは何か
ー　ショーペンハウアーの詩学と『生のイデア』」

（6）「虚構世界論の現代的展開」

バウムガルテン以後の現代においては，「フィクション」への哲学的反省は分析哲学の分野においてよく知られている．この点は，「フィクション」の哲学的歴史研究として，その基本的視座を明確にしておく必要はあろう．加えて現代思想における新たな展開の挑戦的思想としてドゥルーズもみておきたい．（6）の章は，本研究では計画外の研究領域であったが，2020年度の研究分担者及び協力者の交替と増員の結果，実現できたものである．

⑭内藤　慧（研究協力者）「『この世界への信仰』を騙る『仮構』
ー　ドゥルーズ哲学における非-可能世界的な虚構の問題」
⑮松本大輝（研究協力者）「虚構内言明のパズル　ー　フレーゲ的対象概念から」
⑯河合大介（研究分担者）「虚構世界の真理と解釈」

（7）編者あとがき

本研究の計画等の説明，関係者の紹介，今後の課題などについてまとめたものである．
樋笠勝士（研究代表者）

以上

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計31件（うち査読付論文　15件／うち国際共著　8件／うちオープンアクセス　15件）

１．著者名 桑原俊介	４．巻 47
２．論文標題 バウムガルテンの感性的認識（cognitio sensitiva）――「上位認識能力／下位認識能力」およびヴォルフからの系譜に即して」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『哲学科紀要』（上智大学）	６．最初と最後の頁 61-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大橋容一郎	４．巻 22
２．論文標題 近代日本における論理学移入とカント哲学	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『日本カント研究』（日本カント協会）	６．最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大橋容一郎	４．巻 1170
２．論文標題 明治前期における論理学の位相	５．発行年 2021年
３．雑誌名 思想（岩波書店）	６．最初と最後の頁 54-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大橋容一郎	４．巻 60-2
２．論文標題 桑木厳翼とベルリンの哲学	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東洋学術研究（創価大学）	６．最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大橋容一郎	4．巻 48
2．論文標題 カントのカテゴリー論について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『哲学科紀要』（上智大学）	6．最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大橋容一郎	4．巻 29
2．論文標題 フィヒテとロマン主義	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『フィヒテ研究』（日本フィヒテ協会）	6．最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 津上英輔	4．巻 23/24
2．論文標題 Remaking an Ancient Poetic Theory into a Modern Aesthetic Thought: G irolamo Mei ’s System of the Arts	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Aesthetics	6．最初と最後の頁 14-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 津上英輔	4．巻 9
2．論文標題 Girolamo Mei ’s Interpretation of Tragic Katharsis as Culmination of His Aesthetic Thought	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Culture and Dialogue	6．最初と最後の頁 3-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 井奥陽子	4．巻 25
2．論文標題 A. G. Baumgarten and G. F. Meier on Proper Names and their Poetic Effect	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Aesthetics	6．最初と最後の頁 24-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 樋笠勝士	4．巻 70
2．論文標題 プロティノスにおける美の哲学	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『点から線へ』（西田幾多郎記念哲学館）	6．最初と最後の頁 32-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 樋笠勝士	4．巻 20
2．論文標題 プロティノスにおけるフェイディアストポス;「知性的な美について（V8）」を中心にして	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『新プラトン主義研究』（新プラトン主義協会）	6．最初と最後の頁 36-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小田部胤久	4．巻 6-1
2．論文標題 Fine Art as the “Art of Living”: Johann Gottfried Herder’s Calligone Reconsidered from a Somaesthetic Point of View	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Somaesthetics	6．最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5278/ojs.jos.v6i1.5901	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 小田部胤久	4．巻 45
2．論文標題 The Aesthetic Disinterestedness Reconsidered: Baumgarten, Kant, Schopenhauer, and Duchamp	5．発行年 2020年
3．雑誌名 JTLA	6．最初と最後の頁 31-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002000932	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 小田部胤久	4．巻 45
2．論文標題 Conceptions of Folk and Art in the Age of Goethe: Herder, Wolf, Görres, and Schelling	5．発行年 2020年
3．雑誌名 JTLA	6．最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002000935	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 桑原俊介	4．巻 49
2．論文標題 弁論術的弁証術――ルネサンスにおける弁論術と弁証術の統合とその歴史的位置づけ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『哲学論集』（上智大学哲学会）	6．最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡本源太	4．巻 3
2．論文標題 ジョルダーノ・ブルーノ『しるしのしるし』（第一部第三五～五〇節）（翻訳）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 多様体	6．最初と最後の頁 123-141,124-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡本源太	4．巻 51
2．論文標題 ジョン・トーランドによる汎神論の発明――ジョルダーノ・ブルーノの哲学の継承	5．発行年 2021年
3．雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要（岡山大学）	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 津上英輔	4．巻 23/24
2．論文標題 Remaking an Ancient Poetic Theory into a Modern Aesthet ic Thought: Girolamo Mei ’s System of the Arts	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Aesthetics	6．最初と最後の頁 14-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 樋笠勝士	4．巻 19
2．論文標題 プロティノスにおける「共感」―ストア派「共感」理論の受容と変容―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 新プラトン主義研究	6．最初と最後の頁 7-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 樋笠勝士　井奥陽子　津田栞里	4．巻 247
2．論文標題 バウムガルテン『形而上学』（第四版）「経験的心理学」訳注――その6	5．発行年 2019年
3．雑誌名 成城文藝	6．最初と最後の頁 34-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 津上英輔	4．巻 22
2．論文標題 メーイ作エピグラム「フュッリスについて」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 美學美術史論集	6．最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 津上英輔	4．巻 26
2．論文標題 メーイ美学思想の集大成としてのカタルシス解釈	5．発行年 2020年
3．雑誌名 成城美学美術史	6．最初と最後の頁 19-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 高橋陽一郎	4．巻 99
2．論文標題 藝術における「刺激的なもの」―ショーペンハウアー美学を手掛かりとしたある藝術的アポリアの意味	5．発行年 2020年
3．雑誌名 研究紀要(日本大学文理学部人文科学研究所)	6．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井奥陽子	4．巻 70巻1号
2．論文標題 Ａ・Ｇ・バウムガルテンとＧ・Ｆ・マイアーにおける固有名とその詩的効果	5．発行年 2019年
3．雑誌名 美学	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 桑原俊介	4．巻 255
2．論文標題 論理学における心理主義と美学の成立：十六世紀から十八世紀中葉にいたる心理主義的論理学の展開にそくして	5．発行年 2019年
3．雑誌名 美学	6．最初と最後の頁 13－24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小田部胤久	4．巻 37
2．論文標題 「生の技術」の行使される場としての「美的生」について――シラーの「美的教育」論への新たな接近――	5．発行年 2019年
3．雑誌名 美学芸術学研究	6．最初と最後の頁 123-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小田部胤久	4．巻 27
2．論文標題 シェリング『芸術の哲学』における「範例性」と「独創性」――その歴史的文脈の体系的再構成の試み	5．発行年 2019年
3．雑誌名 シェリング年報	6．最初と最後の頁 60-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小田部胤久	4．巻 44
2．論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of the Faculty of Letters, the University of Tokyo, Aesthetics	6．最初と最後の頁 59-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00040370	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 大橋容一郎	4．巻 703
2．論文標題 アロイス・リールの実在論的認識論	5．発行年 2019年
3．雑誌名 理想	6．最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大橋容一郎	4．巻 46
2．論文標題 エミル・ラスク『哲学の論理学およびカテゴリー論』監訳	5．発行年 2019年
3．雑誌名 哲学科紀要	6．最初と最後の頁 19－45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 堀尾耕一	4．巻 67
2．論文標題 アリストテレス『弁論術』における想到法の二類型	5．発行年 2019年
3．雑誌名 西洋古典学研究	6．最初と最後の頁 26－37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計24件（うち招待講演　5件／うち国際学会　7件）

1．発表者名 小田部胤久
2．発表標題 大西克礼とシェリング
3．学会等名 日本シェリング協会
4．発表年 2021年

１．発表者名 小田部胤久
２．発表標題 Schelling in Japan
３．学会等名 Conference organized by the North American Schelling Society（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小田部胤久
２．発表標題 Aesthetic Disinterestedness: Kant, Schopenhauer, Heidegger, and Duchamp
３．学会等名 The George Story Lecture at the Memorial University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 桑原俊介
２．発表標題 批判期カントの構想力概念再考――心理学、超越論、天才論の系譜から
３．学会等名 日本フィヒテ協会
４．発表年 2021年

１．発表者名 桑原俊介
２．発表標題 虚構の形而上学的真理への基礎づけ――バウムガルテンの『美学』と『形而上学』
３．学会等名 日本哲学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 高橋陽一郎
２．発表標題 Die Auseinandersetzung über avidyā in Japan - Eine Antwort von Anesaki oder Schopenhauer -
３．学会等名 IX Schopenhauer International Colloquium Brazil（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 井奥陽子
２．発表標題 バウムガルテンによる諸学の基礎づけ:形而上学から美学へ
３．学会等名 日本哲学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 井奥陽子
２．発表標題 『バウムガルテンの美学:図像と認識の修辞学』について
３．学会等名 オンライン合評会
４．発表年 2021年

１．発表者名 大橋容一郎
２．発表標題 認識論と論理学―認識の論理に関する近代日本哲学の多様性
３．学会等名 日本カント協会
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡本源太
２．発表標題 ルネサンスの宗教論と多様性の問題――ピーコ・デッラ・ミランドラからジョルダーノ・ブルーノまで
３．学会等名 日本倫理学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 樋笠勝士
２．発表標題 光の美学　R.グローステストと教父
３．学会等名 京都大学中世哲学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 樋笠勝士
２．発表標題 プロティノスにおけるフェイディアス・トポス
３．学会等名 新プラトン主義協会
４．発表年 2019年

１．発表者名 樋笠勝士
２．発表標題 光の形而上学/光の美学
３．学会等名 「古典教父研究の現代的意義―分裂から相生へ―」研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 井奥陽子
２．発表標題 ヴォルフ学派における天体の表象
３．学会等名 2019-2020年度科学研究費補助金（基盤研究B）「詩学的虚構論と複数世界論の交叉の系譜的研究」第1回研究報告、東京大学、2019年11月
４．発表年 2019年

１．発表者名 高橋陽一郎
２．発表標題 ショーペンハウアー美学における「刺激的なもの」―ある藝術的アポリアの意味―、ニーチェにおける科学主義と反科学主義の再検討―ショーペンハウアーとの対比の中で―
３．学会等名 日本学術振興会学術研究助成基金助成金・基盤研究（C）[17K02183]第三回研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 高橋陽一郎
２．発表標題 Schopenhauers kritischer Naturalismus
３．学会等名 Die internationale Schopenhauer-Gesellschaft（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 桑原俊介
２．発表標題 弁論術的弁証術：ルネサンスにおける弁論術と弁証術の統合とその歴史的位置づけ
３．学会等名 上智哲学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中均
２．発表標題 アートプロジェクトでは何を鑑賞するのか？：芸術哲学からのアプローチ
３．学会等名 大阪大学豊中地区研究交流会
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡本源太
２．発表標題 The Technological Imagination of Nakai Masakazu and Walter Benjamin: A Comparative Approach to Aesthetic Experience of Modernity
３．学会等名 IRCA International Seminar（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 長尾伸一
２．発表標題 Science, metaphysics and the hand of God; the case of Thomas Reid, Political Economy in the Scottish Enlightenment
３．学会等名 ISSP conference sponsored by International Christian University and the Institute for the study of Scottish Philosophy（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 長尾伸一
２．発表標題 歴史的文脈の中のニュートン主義」、「シンポジウム『新たなニュートン像』を超えて
３．学会等名 日本科学史学会第68回年会
４．発表年 2021年

１．発表者名 松本大輝
２．発表標題 美学会
３．学会等名 虚構名の本質的多義性と物語制作
４．発表年 2021年

１．発表者名 松本大輝
２．発表標題 スポーツの美とルール 芸術の制度論的定義の応用として
３．学会等名 応用哲学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 長尾伸一
２．発表標題 Asian Identities in the Global Enlightenmen
３．学会等名 ISECS Congress 2019, Edinburgh（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計22件

１．著者名 小田部胤久	４．発行年 2022年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 480
３．書名 美学	

1．著者名 津上英輔	4．発行年 2021年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 221
3．書名 Girolamo Mei: A Balated Humanist and Premature Aesthetician	

1．著者名 高橋陽一郎(共著)	4．発行年 2022年
2．出版社 Königshausen＆Neumann Verlag	5．総ページ数 475(担当頁数409-423)
3．書名 Das Hauptwerk, 200 Jahre Arthur Schopenhauers Die Welt als Wille und Vorstellung	

1．著者名 岡本源太（共訳著）	4．発行年 2021年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 524（担当頁数43-60）
3．書名 ジョルダーノ・ブルーノ『紐帯一般について』（翻訳）（『原典イタリア・ルネサンス芸術論』上巻）	

1．著者名 樋笠勝士（編著）	4．発行年 2022年
2．出版社 月曜社	5．総ページ数 344
3．書名 フィクションの哲学	

１．著者名 堀尾耕一（共著）	４．発行年 2021年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 570(担当頁数504-520)
３．書名 フーコー研究	

１．著者名 津上英輔（共著）	４．発行年 2021年
２．出版社 放送大学	５．総ページ数 270
３．書名 新訂　西洋音楽史	

１．著者名 樋笠勝士（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 258（担当頁数98－111）
３．書名 カルチャー・ミックスⅢ	

１．著者名 樋笠勝士（共著）)	４．発行年 2020年
２．出版社 教友社	５．総ページ数 131（担当頁数29-57）
３．書名 光とカタチ	

１．著者名 樋笠勝士（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 月曜社	５．総ページ数 248（担当頁数76-103）
３．書名 存在論の再検討	

１．著者名 樋笠勝士（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 慶應義塾大学出版会	５．総ページ数 312（担当頁数63-80）
３．書名 自然を前にした人間の哲学	

１．著者名 井奥陽子	４．発行年 2020年
２．出版社 慶應義塾大学出版会	５．総ページ数 344
３．書名 バウムガルテンの美学――図像と認識の修辞学	

１．著者名 （共訳者）岡本源太	４．発行年 2019年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 341
３．書名 ユベール・ダミッシュ『カドミウム・イエローの窓、あるいは絵画の下層 』	

１．著者名 （共訳者）岡本源太	４．発行年 2019年
２．出版社 筑摩書房	５．総ページ数 195
３．書名 ジョルジョ・アガンベン『事物のしるし――方法について』	

１．著者名 山内志朗	４．発行年 2021年
２．出版社 ぷねうま舎	５．総ページ数 247
３．書名 無駄な死など、どこにもない	

１．著者名 山内志朗	４．発行年 2021年
２．出版社 トランスビュー	５．総ページ数 263
３．書名 自分探しの倫理学	

１．著者名 山内志朗	４．発行年 2021年
２．出版社 文藝春秋	５．総ページ数 256
３．書名 わからないまま考える	

１．著者名 山内志朗	４．発行年 2021年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 250
３．書名 ドゥルーズ：内在性の形而上学	

１．著者名 山内志朗（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 月曜社	５．総ページ数 245（担当頁数192－214）
３．書名 存在論の再検討	

１．著者名 山内志朗（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 慶応義塾大学出版会	５．総ページ数 299（担当頁数41－60）
３．書名 自然を前にした人間の哲学	

１．著者名 山内志朗（共著）	４．発行年 2020年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 228（担当頁数118－131）
３．書名 江戸東京の精神文化	

１．著者名 津田栞里（共著）	４．発行年 2022年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 430（担当頁数73－94）
３．書名 スピノザと近代ドイツ　ー　思想史の虚軸	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大橋　容一郎 (Ohashi Yoichiro) (10223926)	上智大学・文学部・教授 (32621)	2020年度，2021年度研究分担者
研究分担者	河合　大介 (Kawai Daisuke) (10625495)	岡山県立大学・デザイン学部・准教授 (25301)	2020年度，2021年度研究分担者
研究分担者	桑原　俊介 (Kuwahara Shunsuke) (30735402)	上智大学・文学部・准教授 (32621)	2020年度，2021年度研究分担者
研究分担者	岡本　源太 (Okamoto Genta) (50647477)	岡山大学・社会文化科学学域・准教授 (15301)	
研究分担者	井奥　陽子 (Ioku Yoko) (60836279)	東京藝術大学・美術学部・助手 (12606)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	津上　英輔 (Tsugami Esuke) (80197657)	成城大学・文芸学部・教授 (32630)	
研究分担者	小田部　胤久 (Otabe Tamehisa) (80211142)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授 (12601)	
研究分担者	高橋　陽一郎 (Takahashi Yoichiro) (80333102)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	
研究分担者	田中　均 (Tanaka Hitoshi) (60510683)	大阪大学・ＣＯデザインセンター・准教授 (14401)	2019年度研究分担者

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	長尾　伸一 (Nagao Shinichi)		
研究協力者	山内　志朗 (Yamauchi Shiro)		
研究協力者	堀尾　耕一 (Horio Koichi)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	松本　大輝 (Matsumoto Daiki)		
研究協力者	津田　栞里 (Tsuda Shiori)		
研究協力者	内藤　慧 (Naito Satoshi)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カナダ	Western University			